

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日	平成 25 年 9 月 4 日		
所属学部・研究科	文学部/研究科	3 年次 (留学開始時点)		
留学先大学	テュービンゲン大学 (国名: ドイツ)			
所属学部・学科等名	ドイツ学			
在籍身分	学部生			
留学期間	平成 24 年 10 月 1 日 ~ 平成 25 年 7 月 31 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: 学生ビザ			
	ビザ申請先: 各都市 (テュービンゲン) 市役所			
	取得方法, 提出書類: 滞在書類を記入しパスポートのコピー・留学証明書・入学許可書・証明写真と共に提出			
	手続きに要した日数: 1 か月			
その他必要な事前手続き	手続きは特にはないが、留学前にパスポートや入学許可書などドイツで必要になる書類を何枚かコピーしておくといざというときに便利。			
出国年月日	平成 25 年 8 月 5 日			
経路	関西空港→ロンドン・ヒースロー空港→ドイツ・シュトゥットガルト空港			
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	留学生向けの学期前語学コースにて (9 月中旬~下旬, 3 週間ほど) ビザ申請などのやり方について、留学生向け授業についてのオリエンテーション ドイツでの生活における規則 (ゴミ分別の方法など)			
帰国年月日	平成 25 年 8 月 6 日			
経路	ドイツ・フランクフルト空港→ソウル・インチョン空港→岡山空港			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	172 万	円	
	内訳	渡航費	25 万	円
		保険料	16 万	円
		教科書代(学費)	1 万	円
		宿舍費	40 万	円
		食費	30 万	円
		その他 (交通費)	10 万	円
(娯楽費)	50 万	円		
(費)		円		
3. 授業について				
3 年 後期	10 月 1 日 ~ 1 月 10 日			

4年 前期	4月 15日 ~ 7月 31日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	留学生向け授業 (ドイツ語能力別、個人選択) から1学期につき3つ その他各学科の授業は各授業の担当教授と要相談 (ドイツ語能力等によっては取れない授業もある)
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	1年間留学する場合, まだ慣れていない1学期目は留学生向けの授業を中心に, 2学期目は自分の専攻に応じた授業を取るとよい。毎回の授業で課題や発表の担当などがあるため, 週5つ程度の授業でも暇すぎることはない。
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 10 m ² 同居人の有無 <input type="checkbox"/> 有 (人) <input checked="" type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()
住居費	1ヶ月当たり (現地通貨) 280ユーロ 約 36400 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に関するアドバイス	寮生活をする場合はフラットメイトと話し合っ掃除やゴミ出しなどの担当を決めておく とよい。1か月に1度程度でも食事会などを開くと交流の場ができて会話力の向上にもつながるので よいと思う。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	年間 165760 円 補償額 死亡 1000万円, 入院1事故・疾病あたり 上限2000万円 その他 ()
留学前後での予防接種 の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	
日常的な健康について 不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	私は医者にはかからなかったが, 薬局はあちこちにあるので風邪などの予防は簡単に行える と思う。大学病院が山の上の方にありバスで10分ほどと少し遠い場所にある。

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	よく「日本以外の場所では生水はお腹を壊すので飲んではいけない」と言われるが、ドイツや私が旅行したヨーロッパの国ではどこも大丈夫だった。薬品は様々なものが薬局で売られているが、心配な人は日本から使いなれたものを持っていくのがよいと思う。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
ドイツ国内では特に危険を感じなかったが、ベルリンやフランクフルトなどの大都市ではスリに遭った人がいたので十分気をつけた方がよい。ドイツ国外はよりその危険性が増えると思う。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
始めはビザの手続きなど煩雑な事柄が多いので、先輩やドイツでの生活をよく知っている友人に助けを借りるのが一番よい。重要な手続きに関しては、なかなか連絡が来ない場合には自分から連絡を取るなどした方が自分のためにもなる。テュービンゲン大学には日本学科があるので、ぜひこの学科のイベントや授業に参加して日本語を学んでいる外国人学生と交流をしてもらいたいと思う。日本というものを見つめ直すよい機会になると思う。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 27年 3月	(当初の卒業予定年月 平成 26年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input checked="" type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	半年休学ののち1年間大学へ通い、卒業の予定	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	留学中に取得した単位が全て互換できるとは限らないため、なるべく卒業に必要な単位は取得してから留学するべき。 2年次から留学する場合は問題ないが、3年次から1年間留学する場合は4年次の前期に開講される卒業論文の講義を取得できないため、教授と相談しメール等のやりとりによって卒業の単位を取得するか、卒業を1年延ばすかしなければならない。	
6. 留学準備, 留学中に役立つ書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
大学の HP	http://www.uni-tuebingen.de/	留学生向けのページで講義の内容などを見られる
地球の歩き方ドイツ版	地球の歩き方編集室	旅行をたくさんしたいならこれを持っていると便利
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
<p>留学する前の方々のほとんどは初めて海外で生活するでしょうから、不安なのは当たり前だと思います。確かに複雑な手続きを留学した直後にしなければならなかったり、初めは人の言っていることが全く分からなかったりと困難もあるでしょうが、私は一番大切なのは留学を楽しむことだと思っているので、ドイツにいる間しか出来ないことをめいっぱい楽しんできてください。</p>		
8. 留学先の大学情報 (有名な分野, 大学の規模)		
<p>テュービンゲンは大学町と呼ばれるほど大学関係者が多く住んでいる町で、町の至るところに大学の建物があります。私たちが学ぶドイツ語の授業は主に町の中心部にある建物で行われますが、医学科や哲学科は少し中心部から離れた場所にあります。外国語をはじめ様々な分野を学ぶことができますが、特に日本学科は訪れておいて損はないと思います。タンデムパートナーを探している人もたくさんいるので、大学の授業外でもドイツ語の勉強ができる機会は多くあると思います。</p>		

学習の概要に関するレポート

私がこの1年間ドイツのテュービンゲン大学へ留学し学習面で積極的に取り組んだことは、大きく分けて3つあります。

まず1つ目は、自身のドイツ語能力向上のために会話や文法など様々な方面からの講義を取ったことです。テュービンゲン大学には留学生向けの講義が多数あり、前期にはドイツ語を積極的に話し、使っていくことに慣れるため、また日本で自分が学んできたことの復習をするために会話や文法の授業を中心に取り、後期には自身の専攻であり、卒業論文のテーマにしようと考えているドイツ文学の講義を多く取ることで、自分のドイツ語を様々な方面から磨くことが出来たのではないかと思います。特にドイツ文学の講義では、今までにあまり触れたことのない新しい戦後文学を多数購読し、ゲーテやカフカなど有名な作家しか読んでこなかった私にとって、新しい発見のある有意義な講義となりました。

次に、テュービンゲン大学には日本学科という学科があり、そこでは多くの外国人が日本語を学んでいるのですが、そこでも私は日本人として外国人の学生とは違った目線からいくつかの講義に参加することが出来ました。日本で出版された小説や短編小説をドイツ語に翻訳する授業で、日本人にとっては和文独訳のような授業だったのですが、私にとっては日本語をただドイツ語に翻訳するだけの簡単な授業ではありませんでした。ドイツ語にはない、または翻訳が難しい言い回しが使われていたり、そもそも文章がドイツ人にはなかなか理解できない日本人独特の心情や行動などを表していたりと、ドイツ語の翻訳・作文能力の向上を図ることが出来ただけでなく、日本語とドイツ語の言い回しの違いやそれに伴った日本人とドイツ人の感性の違いなども同時に学ぶことが出来ました。また、ドイツ人には理解が難しい文章や言い回しがあった際に、ドイツ語でその意味を説明したり、分かりやすい例を出したりと、学生・講義受講者という立場で学ぶだけでなく日本学科の学生に日本人として日本語について教えることも出来ました。特に、日本語に多く見られるのですが外国人にはとても理解することが難しい「オノマトペ」については、その意味と例文を載せた資料を作成し学生に配布するなど、外国人学生の日本語学習の補助もすることが出来たと思います。

最後に、ドイツの大学ではよく行われている「タンデム」という制度を利用し、大学の授業時間以外でもドイツ語を学ぶ機会を作ることが出来ました。この制度は、例えば日本人とドイツ人がパートナーとなってお互いの母国語を教え合うという制度なのですが、私はドイツ人と日本人のハーフの学生とパートナーになり、ドイツ語を教えもらうと同時に相手の日本語検定の勉強に協力したり、日本の教育制度や政治などについて話し合ったりと、内容の濃い学習を行うことが出来ました。

HUSA プログラムでテュービンゲン大学へ留学したのは広島大学からは私一人でしたが、それがかえって自分の力で物事を解決していくよう頑張れる助けになったと思います。大学生のうちにHUSA プログラムを利用してドイツに来られてこれだけ視野が広まったことは本当に有難いことです。この1年間で体験できたことは今後の私の生活にも必ず活かされていくと思います。留学が終わったからといってここでドイツ語の学習を終えてしまうのではなく、大学を卒業してからも留学中に得たことを忘れず、更なる学習を続けていきたいと思っています。

生活の概要に関するレポート

ドイツへの留学中に最も試行錯誤したのは、平日の授業外の時間や休日をどう過ごすかということでした。特にドイツでは日曜日は全ての商店が閉まっており、日本とは違ってショッピングをして休日を過ごしたりということは出来ません。しかし1年間の間、日本とはまた違ったドイツでの休日の楽しみ方というものを体験できたと思います。

ドイツの大学生は日本のようにアパートやマンションを借りて一人で生活することは珍しく、大抵は大学の寮に住むかWGという大人数でのルームシェアをして生活しています。キッチンやバスルームが共用のため掃除の分担を行う必要があるなど煩雑なこともあります。食事会を開いてフラットメイト達と一緒に料理を作ったり会話をしたりと、とてもよい交流の場となったと私は感じています。特に私の住んでいたフラットは私の他は皆ドイツ人の学生だったため、食事会の際にドイツの経済事情や就職活動などを質問したり、彼らが日本について疑問に思うことがあれば答えたりと、お互いの国のことをより深く知る機会にもなりました。

また、私の留学していたテュービンゲン大学には日本学科があり、そこで日本語を学ぶ学生が企画したイベントに参加することも大きな楽しみの一つでした。イベントの内容としてはカラオケやゲーム大会、日本映画の上映会など日本の文化に触れられるものから、忘年会や夏祭りといった日本の風物詩に至るまで様々で、外国人学生と私たち日本からの留学生が一緒になって楽しめるものばかりでした。日本学科の学生たちは皆それぞれ違った分野に興味を持っていて、趣味の合う学生を見つけて話をする中でドイツ語の向上にもなり、また日本人とは違った目線から意見を得ることで自分の視野を広げることも出来る、一石二鳥以上の価値のある交流だったと思います。

さらにタンデムという学生同士がお互いの母国語を教え合う制度を利用したことで、授業時間以外でもドイツ語を学ぶ時間をさらに増やすことが出来ました。私はドイツ人と日本人のハーフの学生とタンデムを行い、ドイツ語を学び日本語を教える他に、お互いの国の現在の政権についてどう思うかといった社会問題についての討論から、何故日本の若者が流行をこぞって取り入れようとするのかといった疑問に対する意見の交換など、あらゆる問題や疑問において意見を交わし見聞を広げることが出来たと思います。誰かとひとつの話題についてしかもドイツ語で深く話し合う機会は中々ないため、タンデムはドイツへ留学した際には是非上手く利用してもらいたい制度です。

ドイツ国内だけでも多くのことを体験する機会はあるのですが、私は留学した学生には是非ヨーロッパの各国へ旅行してほしいと思います。陸続きで鉄道や飛行機を利用して簡単に旅行が出来るから、というだけでなく、ドイツ以外の国を訪れその国の文化に触れたり人々と交流することで、さらに新しい発見があり、自分の人生観が変わることもあるかもしれません。

留学というと大学での授業の方に重点が置かれがちですが、日々の生活の中でも今後のためになる多くの体験をすることが出来ました。異国の地で生活するというのは想像以上に大変なことではありますが、自分から積極的にやることを見つけ充実した生活を送ることができたと思います。